

蘆花会通信

第11号

2026年(令和8年)

8月20日

特定非営利活動法人

蘆花会

編集発行人 佐久間保明
https://www.rokakai.com/

『みづのたはこと』の重要人物

本年の蘆花忌の集いでは十年ぶりに佐久間保明が担当することになりました。見出しに掲げたごとく、粕谷の地になじみの深い『みづのたはこと』(初版の書名)に登場する人物についてお話ししようと思います。

徳富蘆花が東京の青山から粕谷に移住したのは明治四〇年(一九〇七)二月です。結婚以来何年も近くに住んでいた兄蘇峰一家の干渉を受けていた蘆花は、ようやく文字通り一家のあるじとなり、喜びはひとしおでした。家を持った蘆花は新鮮な気持ちで田園生活を始めます。そこには蘆花にとって重

要な人物が訪れました。「梅一輪」の石倉芳子、「わかれの杉」の小笠原善平、「閑寛翁」の閑寛斎などいずれも蘆花と深い絆を結んだ人々です。彼らは語るべき魅力的な材料の持ち主ですが、今回は蘆花が粕谷に移住して初めて会うことになった人々について取りあげます。

たとえば本書の前書きに当たる「故人に」には、「僕を最初村に手引した石山君」と書かれた人がいます。次の「千歳村」では「この石山という人」となり、草葺きの農家を購入する話が「都落ち」の章で語られ、土地は「石山氏以外一人の所有で」「家は

隣^{あぎ}字の大工の所有」でした。この家の前々持ち主が蘆花には重大な問題であり、自作広告文で「戦慄す可き恐ろしき説話」と示唆する「腫物」で詳しく語られます。

石山氏には義弟があり、その妻である女性が「腫物」の主人公です。「前々持ち主」との因縁を持つ彼女は蘆花の近くに住み何かと往来がありました。彼女の子供である目や口の不自由な兄弟をはじめ、粕谷移住によって初めて出会う彼らは蘆花にとって驚くべき存在であり、そのありさまや意味について報告する予定です。(講演は九月十九日午後二時開始)



二五年度会計報告

昨年度の会計報告が四月八日の総会でありました。前年度繰越金は二四二、〇八二円でした。

会費収入は二五、〇〇〇円、利息四〇六円。合計で収入は二五、四〇六円。歳入合計は二六七、四八八円。

支出は、ホームページ維持費三九、六〇〇円(株アイフレッジ、月額三、三〇〇円)、会報郵送料五一、七〇〇円、花代二一、四五〇円、音響効果料一〇、〇〇〇円、講師料二〇、〇〇〇円。歳出合計は一四二、七五〇円。

差引残高は一二四、七三八円となりました。

都の助成金は受けていません。運営委員以外からの納入者は、小西明子、太田孝之、松尾信太郎、岡本潔、樺澤眞事、松家晋、仁藤和夫、荒井宏昭、上岡政夫の諸氏です。榮山慶二氏よりは切手を多数いただきました。皆様に厚く御礼申しあげます。

愛子忌の集いは「寄生木」

今回の講演(二月二一日)では大作の「寄生木」が選ばれました。報告者の大槻慶子さんは岩手県宮古市で生まれ東京で育ちました。父上の蔵書であつた岩波文庫の「寄生木」を読んで以後、原著者で主人公でもある小笠原善平に関心をいだき、早くから彼について調べレポートをまとめてきた女性です。蘆花会には二〇一七年から参加され、初対面のときに早くもレポートを示されたのが本会とのご縁です。

当時はどこにもレポートの内容を公開してはいけな
いと言われましたが、このたびようやくご自身で報告すると決心された企画です。

小説「寄生木」は千ページに及ぶ長編であり、他の蘆花の小説と違って最近を読むべき本が少ないというのが実情です。というのにもかかわらず三冊に組まれていた同文庫が現在絶版になっているか

らです。

小笠原善平は農家の次男に生まれながら村長だった父が冤罪で六年近く収監されるという不運のなか、乃木希典將軍の恩を受け刻苦して陸軍少尉となるも、病氣と恋愛に悩むなか蘆花を訪ねて小説化を依頼したのち二十八歳で自殺しました。

夫君帯同で着席された大槻さんは十三枚の資料を用意され、これまで考察されてきた結果を彼女自身の興味に従い、熱意をこめて語られました。作品中に触れられていた明治期の三陸大津波の記録と、善平の書き残した記述を丁寧に読み込み、その後の経過をも詳しく調べた結果を話されました。そこでは善平だけでなく、善平が進学しようとした旧制盛岡中学出身の石川啄木やその記念館であつた図書館の変遷について述べられ「寄生木」本文以外への関心の広がり

ただし岩波文庫版は誤植の多いことが判明したので、二十箇所ほど具体的に指摘することをもって締め括りしました。貴重なお話しをされた大槻さんにはあらためて御礼申しあげます。



小笠原善平の生涯

明治十四年(一八八一)六月五日に生まれ、四十一年(一九〇八)九月二十日拳銃自殺する。冤罪による父の入獄中、小学校卒業後に仙台に出奔して乃木希典將軍の学僕となり、陸軍幼年学校および士官学校を卒業する。蘆花に会って原稿を託し、旭川の師団から少尉として日露戦争に従軍し凱旋するが、保証人となった憲兵少佐の娘との縁談がこじれ、病苦にも悩んだ末の最期であつた。

会員募集

【入会金・年会費】

正会員各 1,000 円

賛助会員各 500 円

【振込先】

三菱 UFJ 銀行王子駅前支店

特定非営利活動法人蘆花会

普通 0274264

*会報の送付を停止希望の場合は左記までお知らせください。

090・1618・9659

sakumaxim@ezweb.ne.jp(佐久間)